

わきょうしんじょう

和協信条(ドイツ語--Konkordienformel ラテン語--Formula concordiae)

カルヴァンをはじめとする改革派の代表的な信条が「ハイデルベルク信仰問答」であるのに対して、この信条はルター派の主要信条の中で最後に出されたものです。1580年ドレスデンでドイツ語により出版され、84年ラテン語版が出されました。ルター派の教会の一致のため、和協信条という名前で公にされたもので、12カ条から成り、聖体内のキリストの实在、キリストにおける神性と人性の関係などルター正統主義の決定的立場を解明しています。

ただし、この信条によって、ルター宗教改革の後継者は分裂の危機から救われはしましたが、ルターの宗教改革のダイナミックな精神が、特定の教義を真理とみなすことが信仰であるということにすりかえられ、これが、死せる正統主義とも言われ、ルター派正統主義を生み出していく原因にもなりました。

(参照文献：ブリタニカ国際大百科事典電子辞書対応小項目版)

(参照文献：Wikipedia「[和協信条](#)」最終更新 2013年4月2日 (火) 05:04)